

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	直腸がん肛門括約筋温存術後のLARSを抱える患者の退院後の体験に関する文献検討
作成者（著者）	水流添, 秀行
公開者	FD委員会 健康科学ジャーナル編集会(東邦大学健康科学部)
発行日	2023.03.31
ISSN	24343838
掲載情報	東邦大学健康科学ジャーナル. 6. p.117 117.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	学部特別研究助成報告
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohohsj.6.117
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD28215552

直腸がん肛門括約筋温存術後のLARSを抱える患者の退院後の体験 に関する文献検討

水流添 秀行

I. 緒言

直腸がん肛門括約筋温存術は低位前方切除症候群（Low Anterior Resection Syndrome：以下LARS）と呼ばれる排便障害による失禁や放屁による問題が就労者の就労再開・継続を阻害する。直腸がんを含む大腸がん患者は病休開始から平均6か月以内に復職することや、外来で患者に関わる時間が限られていることから、直腸がん肛門括約筋温存術後の就労再開を予定する患者に対する支援教材が必要と考える。

本研究の目的は、直腸がん肛門括約筋温存術後のLARSを抱える患者の退院後の体験を明らかにし、支援教材の目標を検討することである。

II. 研究方法

1. 操作的用語の定義

LARS：直腸がん肛門括約筋温存術後の排便機能障害

退院後の体験：退院した直腸がん肛門括約筋温存術後の患者の自身のがん罹患やLARSの症状に対する心理的状況や対処行動

2. 対象文献の選定

文献検索は医中誌Webを用いて、直腸がん、LARS、体験等の言葉で検索を実施した。検索された論文は、退院後の体験の質的な記述がある等の条件で選定した。

3. 分析方法

選定された論文を精読し、退院後の体験に関する記述の具体が分かる箇所を抜き出し本研究のコードとした。コードに共通する意味内容をまとめ、それらをサブカテゴリ、カテゴリとした。

III. 結果

対象論文は7本であった。対象論文より抽出された退院後の体験は5カテゴリ、25サブカテゴリ、202コードであった。以下カテゴリを『』、コードを“ ”で表記する。カテゴリは『がん罹患・LARSによる変化の受容困難』、『変化した自身の再構成』、『新生活の定着と続く不安』、『社会生活への参加の検討』、『LARSに対するセルフケア』であった。『新生活の定着と続く不安』には、“変わらずに生じる排便障害の症状は日常となる”等が、『社会生活への参加の検討』には“会議の途中おならががまんできかない場合すぐに部屋を出て放屁する”、“突然の体調の悪化に備えて仕事が引き継げる体制を整える”等が、『LARSに対するセルフケア』には、“女性用のパットを使用しすぐに取り換える”、“早く仕事に復帰するために退院後1ヶ月くらい肛門を締める練習を独自で行っていた”等が含まれていた。

IV. 考察

直腸がん肛門括約筋温存術後の就労再開を支援する教材の目標には①排便障害が持続している状態でも就労再開・継続することを前提とすること、②仕事関係者に対するLARSの症状の伝え方を検討できることを含むこと、③失禁時の対処法と失禁改善に向けた対処法に関する内容が必要と考える。

本研究の内容は2022年11月にThe 12th Hong Kong International Nursing Forum cum 1st Asia-Pacific Qualitative Health Research Network (AQUHN) Conferenceにてポスター発表を行った。